

動物園だより

(題字 京都市長 門川大作)

No.150

平成21年10月1日発行

ホームページが 新しくなりました!!

キリタイムズ
動物園だより
壁紙など



最新のニュース
楽しいイベント情報

その他
いろんな情報が
いっぱいです!

飼育員・獣医
救護センター
WRC(野生動物研究センター)
のブログ



できごと

テンの飼育再開!

☆昨年12月にユキ(メス)が亡くなり、テンの飼育を中断していましたが、到津の森公園からホンドテンの若いメスが来園しました。10月中旬頃に展示する予定です。



誕生!

☆7月11日アミメキリンのミライがメスの赤ちゃんを生みました! 先日旅立ったリュウオウが生まれたときにくらべ、少し小さく、おっとりした赤ちゃんです。

【7月11日撮影】



☆キリンの赤ちゃんの名前を、一般公募したところ、『音羽(オトワ)』に決まりました! 8月23日には、命名式も行われました。

プレゼント

☆今年も果物や魚がいっぱい詰まった、冷たいプレゼントを動物たちにいただきました。暑〜い夏の涼しい?ひとときでした。



チンパンジー通信

☆5月21日からチンパンジーたちの勉強が始まっています。パソコンの画面に、バラバラに並んだ数字を小さい順に選ぶ勉強をしています。今では(8月19日現在)ヨウコとズミが3まで、タカシとコイコが4まで覚えました。みんなの様子はホームページのWRCブログでご覧いただけます。



寄付のお知らせ



ありがとうございました

プロバスクラブ京都様から、擬木製ベンチを寄贈していただきました。

東門出入口開設!!地下鉄蹴上駅から「徒歩5分」!!

インドオコウモリ満ちるの人工哺育折れ線グラフ

コウモリは、生まれてきた赤ちゃんがしっかりママにしがみつけないといけません。満ちるはその力が弱く、母親から離れて地面に落ちてしまいました…。すぐさま助け出し、人工哺育をすることに。これは満ちると担当者の奮闘と成長の記録です。

哺乳の工夫

ミルクは、犬用粉ミルクを使用し、最初はブドウ糖液で溶かしました。小型動物用の乳首には全然吸いつかず困りましたが、体を包んでいた布にかじりついたことから、そこにミルクを染み込ませて飲ませるとうまくいきました。

また、コウモリの元々の体勢と誤飲を避けるために逆さまで哺乳しました。



手の中に納まらなくなってきたので、Tシャツにしがみつかせて哺乳しました。力強くなってきてひと安心です。

排便を促すために、ぬるま湯で染めさせたティッシュをお尻にあててマッサージしました。便の状態を見ながら、お腹の負担にならないようなミルク濃度の調整を行いました。



性別はメスで体重は56.1gでした。手の中に納まるほど小さく、まだ耳も垂れていてか弱い感じです。人工哺育の試行錯誤が始まります。

脱水！

離乳の準備

哺乳もしながら、ももジュースやリンゴの搾り汁→すりおろしリンゴやバナナのペースト→固形のリンゴ、バナナやオレンジなどエサの内容を少しずつ移行しました。この辺りから体重がどんどん増加し、とても活発になってきました。

満ちるという名前の由来

満ちるの人工哺育を始める以前にも、何頭か母親の胸から落ちてしまったコウモリの赤ちゃんを育てようとしたことがありましたが、どの子も数日で死んでしまいました。

これらの辛い経験を乗り越え、彼女はしっかり育てあげたい、「元気で幸せに満ち溢れて育つように」と願いを込めて「満ちる」と命名しました。



最初試していた、箱にヒヨコ電球で保温する方法は、空気の乾燥が激しかったようで、満ちるは脱水、生死の淵に追いやってしまいました…。急ぎよ哺育器に移し、温度と湿度を保ちます。

誕生&人工哺育スタート



哺乳が完全に終了した頃、体重増加も安定してきたのと、完全にコウモリの仲間入りをさせるため、初めは昼だけ次に日中だけ、そして、終日他のコウモリと同居させるようにしました。

人工で育った満ちるはたくさんの仲間に囲まれているのが怖いようでした…。うまくいくのか、少し心配です。



他のコウモリに囲まれてエサを食べるのがどうも苦手だった満ちる。栄養失調で、とうとう倒れてしまい別飼いさせることになりました…。

後肢に麻痺が残り、網にひっかかっているのがやっとという状態がしばらく続きました。

同居開始

栄養失調

再び同居



成長と共に、腕を盛んにバタバタさせたり(おそらく飛行の練習)、歯が生えてきたことでなんにでも噛みつくようになりました。そして満ちるの皮ふの健康のために、晴れた暖かい日はなるべく日光浴をさせに外に出ました。

5月半ばからコウモリは日光浴のために屋外の展示場に移動しました。満ちるは健康状態も良くなり、昼間の外の気温も高くなってきたので、再び日中だけ同居させることにしました。以前の時のように、他のコウモリにはあまり友好的ではないのですが、輪の中にいることには少しずつ慣れてきているようです。

5/22

5/30

6/12~

9/23~

2009/3/5

7/17~

担当者から

コウモリでも人間でも、生まれたばかりの赤ちゃんはか弱い存在です。「ほんの少しの失敗が満ちるを死に追いやってしまうかもしれない…」と、なかなか積極的で思い切った判断ができずにいた私でしたが、その時の相棒である先輩飼育員に強く支えてもらいながら、共に試行錯誤を繰り返してきました。少し(?)過保護に育ててしまったかもしれませんが、現在満ちるは300gを超えるほどに大きく元気いっぱい成長しました。

けれど、脱水させたこと、栄養失調にさせたことなど、判断を誤ったことで満ちるを危険な目に遭わせてしまったことは、本当に申し訳なく思うし、また、人の手で育てられたこの子をコウモリの群れに導入することがこんなにも難しいのかと痛感しています。

満ちるの人工哺育が始まってから、もうすぐ1年半です。これだけ元気に育ったのは、一緒に奮闘した先輩のおかげであり、また、満ちるの強い生命力のおかげでもあるのでしょうか。人工哺育をするという経験はない方が良いのですが、この貴重な経験をさせてもらえて私は前より少しだけ成長できたと思うし、彼女にはとても感謝しています。これからも満ちるを見守っていきたいと思います。

ZOOスポット 66

今回は、新人飼育員の岡部光太さんにスポットをあててみました。

子供の頃から夢だった職場で働けることになり、刺激的な毎日を送っています。

僕が、動物園で働きたいと思うようになったきっかけは、『動物と心を通わせたい』という夢が原点になっています。なにしろ、動物園がとても好きで、動物たちが何を思い、考えているのかということにとっても興味がありました。そのため、動物園に自転車で通い詰める日々を過ごしたこともあります。そして当然のように、大学では動物行動学を専攻しました。小さい頃から、自分の持っている飼育員になるという夢は、実現が難しいということを知っていましたが、日本各地の動物園を学生の間にできるかぎり回り、動物園がどういう活動をしているのか、どういう所に力を注いでいるのかということを感じようとしてきました。

そこで出会ったのが、京都市動物園です。僕がこの動物園に惹かれた部分は、施設ではなく人の力が最大限に活かされているところです。僕はその活動ひとつひとつが面白いと思い、実習の受



け入れもお願いしました。

そして夢が現実となり、今ではおとぎの国とレッサーパンダを主に担当しています。

まだまだ半人前で、周りから叱咤激励されている身です。飼育動物、先輩方はもちろん、来園者の方からもいろいろなものを吸収したいと考えていますので、よろしくお願いします。これまで見てきた動物園での思い出や、学生時代に得た経験と知識を生かして、来園される多くの皆様に、動物の様々な姿を伝えていきたいと思ひます。

飼育員のひと工夫！

飼育員が、動物たちや見に来ていただいているお客さんのために、いろいろな工夫をしているのでのぞいてみましょう！

其の6

今回は爬虫類館の紹介です。



今が旬!!
そんなニュースが
書かれている
飼育員
お手製掲示板~



本物のヘビの抜け殻！
さわって
確かめよう~



ビルマニシキヘビの
『たまご』のお腹に
うんちがつまっていた！



ワニのウンコも
さわって
みよう~



『ようこそ
レプタイルズ HOUSE』
爬虫類館の仲間たちを
マンガで紹介します！